

# 英語力に関する教育訓練の効率化

産業技術課 福富 浩行

## 1 はじめに

平成 28 年度に実施した企業ニーズ調査では、企業や職種によって、英語力の必要度が異なっており、今後の方向性として訓練実施時期等を調整して選択型の授業への移行等も視野に置いた検討の必要性も示されていることから、本研究では本校における英語教育の方向性に関する研究を実施した。

言語能力向上は、コミュニケーション能力向上となり、社会生活や就職での優位性向上も考えられる。

そのため、現状を把握し、英語教育の改善と工夫により、能力向上、就職、企業ニーズ、日本の将来に役立てていくことが本研究の目的である。

## 2 現況の調査

### 2.1 英語教育の現況

#### 2.1.1 本校の英語教育の現況

現在の本校の英語教育は、1 年次 1 年間、週 1 回 1 コマ 2 校時を 1 科 40 名 2 分割し、日・米国人講師による前半・後半 1 校時ずつの授業を行っている。日本人講師はリスニング、文法、単語等の学習。米国人講師は英会話、基礎的なプレゼン指導を行っている。

#### 2.1.2 機構立と県立の短期大学の英語教育の現況

機構立 14 校と県立 13 校を調査したところ、期間は概ね 1 年間が大部分であり、半年間、1 年半、2 年間実施している校は若干数であった。また英語の他、工業英語の実施校もあった。定員の大部分が 1 科 20 名程度であった。

#### 2.1.3 シラバスから見る授業内容

上記の短期大学校の中で公開されているシラバスを調査したところ、英文法の項的記述や使用する教科書に関する事柄が多かったが、かなり実用的な訓練内容の校が若干あった。下記にその例を示す。

a.挨拶・自己紹介、b.電話対応、c.会社訪問、d.マニュアルを読む、e.生産現場の掲示文、看板を読む等。

### 2.2 本校の就職先等の現況

企業ニーズ調査により、就職先においては、平均的に見ると英語の必要性はさほど高くないとされたが、その理由を工業技術見本市等の機会を利用して、本校卒業生就職企業、求人企業に尋ねてみると、主に以下のような意見をいただいた。

#### (1) 英語力を求めない意見

・業務自体で殆ど使用していない。

・元請会社は必要でも、受注弊社は殆ど必要なし、海外出張先に元請社員がおり、現地でもあまり必要なし。  
・会社小規模で需要が殆どなし、できる人は数人で可。  
・英文マニュアルを読む時、自動翻訳を使用しているので、その翻訳後の日本語の意味がわかればよい。  
・海外提出書類も以前は大学英文科に依頼していたが、最近は専門用語対応自動翻訳の方が高精度である。

#### (2) 英語力を求める意見

・機器メンテナンス等のサービス海外出張増加。  
・元請会社に外国人技術者が入り、短大で習った英語が仕事で役にたっている。  
・海外進出も考えたが、社員の語学力不足、文化や習慣をよく把握していないので、進んでいない。  
・自動翻訳は良くなったが、また誤変換、表現不足も見られるため、その補正等で、最低限の語学力は必要。  
・周囲に外国人が増えて、接する機会が増加。少子化・事業拡大等で将来外国人雇用の可能性もある。

### 2.3 企業が語る本校の学生の特色

よく就職企業から「技術的な実力は、4 年生大学卒と殆ど変わらない、まじめでおとなしいが、もっと元氣さと自己表現力がほしい」と言われることがある。

まず日本語表現に加えて英語でも表現することにより、自己表現を広げることが可能になると考えられる。

### 2.4 英語についての学生アンケート調査の実施

学生に対して、英語についてのアンケートを実施した。(情報技術科 2 年生 2 月実施。内容は「必要性」、「海外旅行・勤務希望」、「技術英語学習」、「好き／嫌い」「得意／苦手」「学習希望」を「聞く」「話す」「読む」「書く」「単語」「会話」毎等、各 3 段階全 32 項目で確認)

その結果、以下のような傾向がわかった。

・「英語学習不要」と「使えなくてもよい」は共に 16%。  
・「生活の中で英語を使う」は 53%。  
・「海外旅行希望」は 47%、「海外勤務希望」は 28%。  
・「技術関係の英語を勉強したい」は 53%。  
・「話すのが好き」は 22%、「話すのが得意」は 13%、「発表を行いたい」は 16%と、「話すの関係は低かった。(話すのが苦手、自己表現力向上の必要性を感じた)

またこのアンケート以外にも随時、今年度、本校学生の英語に関する考え方に耳を傾けること(特に苦手な人、また得意な人にも)も行った。

その結果、英語の苦手な学生も多く、長年英語アレルギーに苦しんでいる学生も見受けられた。

少数ではあるが以下のような学生も存在していた。

- ・内向的だが、リスニングは得意な人。
  - ・リスニングは得意ではないが、話す度胸がある人。
  - ・英検（2・準2・3級）を受験し合格している人。
- 上記の学生にも、能力を活かせる環境提供を考える必要があり、そのことも下記の提案の中で活かした。

### 3 英語授業の運営変更の提案

#### 3.1 1年生の場合

現在の本校のカリキュラムは、かなりの授業時間で、これ以上他の教科の授業時間を増やすのは厳しい。

現在一般教科で、社会人のビジネスマナー、社会経済等の授業は重視されている。そのため、英語を選択型とすると考えた場合、対になる授業を検討し、設定する必要がある。例えば仮に「体育」とした場合、以下のプランが考えられる。

- ・「英語」と「体育」をどちらかの選択制にすること。
- 英語不足分は水曜日の放課後の自主参加授業やクラブ等で、体育は放課後等のクラブ活動として行う。

#### 3.2 2年生の授業への導入

語学学習の継続の必要性、学生からの希望から、「英語」の2年生繰入れも検討を行う。

- ・一般教科選択授業への技術英語等の導入の検討。
- ・「英語」と対になる授業（例えば「体育」）の時間を1週おきにし、2年目も継続して行う。

### 4 授業の内容に関する提案

企業や職種によって、英語力の必要度が異なっており、現在不要の企業人も、入国外国人の増加、事業の拡大や変更により、突然必要な機会がやってくることも考えられる。そのような時、仕事や日常における必要最低限の自己表現と相手の意思を確認できる人材育成を目指し、以下の提案を行う。

#### 4.1 簡単に、より実用的な英会話を目指す

仕事や日常生活の場面を想定した実用的な使える英会話実習を実施する。主な学習内容として、

- ・挨拶、表情、ジェスチャー、意思の表現
- ・自己紹介ができ、相手の意向、趣向も尋ねられる。
- ・会社訪問の電話予約、訪問（会社側訪問者側双方）→英語による会社劇の実施も検討を行う。

同時に本校のシラバスも、テキスト项目的表記からより実用的な、明解なものに記述検討を行う。

#### 4.2 学習において、英語文の単純化、ゆっくり化

上記に出てくる単純化とは、相手に伝えたい意味なるべく変えないで、簡単に伝えられるようにすること。「やさしい英語」を目指す。以下に例を示す。

- ・元の文：My job is an English teacher. ↓
- ・改良文：I teach English. （単純化）

関係代名詞等、学生を困惑させ実用的でない学習はなるべく取り除き、簡単に伝わる英語を目指す。

全世界の英語会話者は、ネイティブ以外の方が多いので、ワールドワイド志向の指導を目指していく。

また、丁寧、ゆっくり、繰り返しの指導も心がける。

#### 4.3 自己表現をアップさせる英語学習の実施

英語は勿論、日本語表現も不得意な学生も存在するため、英語学習においてより効率的に自己表現できるように、以下のとおり、会話の元を作る運営とする。

- (1) 英語苦手学生は、日本語で言わせる、書かせる。
- (2) 英語に訳す。（他人支援、自動翻訳も可）
- (3) 致命的なミス修正を行い、文を単純化にする。
- (4) 英語で話す。または書かせる。続いて会話へ。

#### 4.4 できる・好きな学生の活用

語学学習は1対1が基本なので、クラスを自己意思（できる・できない等）で能力別2グループに分割、対グループでランダムペアを組ませて、簡単なテーマを決めた1分間スピーチ、4.3の会話等の実習を行う。

その際、できる学生は、もう一人の英訳、修正、単純化、話し方等の支援を行うことで、自己の英語能力を更に伸ばすことが可能となる。グループ学習でも、活用可能範囲でその手法の導入を検討する。

また、できる・好きな学生は、積極的に放課後の選択授業・クラブ活動、国際交流にも積極的に参加して資格取得をも目指す。

#### 4.5 学科の特性と専門に合わせた指導

アンケート結果の反映と学科の特色に合った英語教育も目指していく。まずは専門単語から検討を行う。

#### 4.6 自動翻訳ツールの効率的な使用法に関する指導

自己の授業において、試行指導を実施してみる。

#### 4.7 簡単実用カードやメールマガジン等の配布

簡単に実用的な3文程度の配布検討を行う。

### 5 今後の取り組み

今回の調査・研究が、来年度以降、学生の自己表現力向上、簡単に実用的な相手に伝えられる英語表現の定着を目指していくため、工夫と試行を繰り返していきたいと考えている。また、各科の特性に合わせた指導、技術英語についても引き続き、検討をしていく。

### 6 参考文献

- (1) 会話もメールも英語は3語で伝わります、中山裕木子、(2016)、ダイヤモンド社